

SPF 豚農場認定制度の進捗状況

日本 SPF 豚協会会長 赤池 洋二

日本 SPF 豚協会では一昨年より検討を重ねてきた SPF 豚農場認定規則を最終決定し、それにもとづいて認定制度を発足させた。なにしろ初めてのことであり、ここに至るまでの関係者の苦勞は並大抵のことではなかったと思われる。認定規則は、産業としての SPF 養豚の目的が「安全性の高い、高品質の豚肉を効率良く生産すること」にあるとの考えに立って制定された。しかしながら、この制度はまったく未経験のことでもあり、運用してみなければわからない点も多いと思われるので、3年後を目途にもう一度見直すことになっているが、現在(H. 6. 10)までの進捗状況を以下に述べる。

1. SPF 豚農場認定委員会

本委員会委員は日本 SPF 豚協会理事会の認定にもとづき次の方々に委嘱した。

(敬称略・順不同)

学職経験者委員

委員長

○波岡 茂郎 北海道大学名誉教授

副委員長

○三村 二雄 日本全薬工業(株)中央研究所長

高橋 正也 日本養豚学会会長

○新井 肇 東京農業大学教授

志賀 彰 日本種豚登録協会

日本 SPF 豚協会委員

赤池 洋二 日本 SPF 豚協会会長

高畠 保雄 日本 SPF 豚協会副会長

生産ピラミッド委員

宮内 一典 ホクレン農業協同組合連合会

○海老 成直 住商飼料畜産株式会社

○大石 隆一 伊藤忠飼料株式会社

千葉 和彦 株式会社 シムコ

椎名 廣 千葉県経済農業協同組合連合会

村井 金三 日本農産工業株式会社

○花岡 秀昌 全国農業協同組合連合会

(○=常任委員)

2. SPF 豚農場認定の経緯

1) 8月5日

①第1回の認定委員会が開催され、認定審査の進め方について審議が行われた。その結果、認定委員のなかから常任委員を選出し、常任委員会で事前審査を行ったのち本委員会に上程して決定する方法をとることになった。

②つぎに認定審査にうつり、申請のあったGGP, GP農場計11農場がすべてが基準を満たしていることが確認され、SPF豚農場として認定された。

2) 9月13日

第2回目の認定委員会が開催され、最初にGP農場2農場が認定された。次に、各生産ピラミッドのコマーシャル(CM)農場認定委員会から報告のあった24農場に対する認定作業の内容について検討し、適切な評価がなされていることが確認

されたのでCM農場としての認定が承認された。

以上により、平成6年9月13日現在ではGGP、GP農場が13、CM農場が24、合計37のSPF豚認定農場が誕生したことになる。これらの認定農場には直ちに認定証を交付し、希望農場には農場名入りの楯を制作提供した。

3) 次回の認定委員会は11月22日に予定されており、新たに15~20のCM農場が認定される見込みである。

3. 年内のSPF豚農場認定数および飼養母豚数の予測

11月までの認定農場数はGGP、GP農場13、CM農場40~50となり、飼養母豚数は28,000頭(SPF豚全体の24.3%)となることが予測される。

4. SPF豚農場の対応

30年近い歴史をもつわが国のSPF養豚は今までは自主的な規制によってそれなりに維持されてきた。しかし、農場の数が増加するにつれ、自主規制の内容にばらつきが目立つようになり、このままではSPF養豚そのものが瓦解しかねない恐れすらでてきた。これに対処するとともに、消費者にSPF養豚を正しく理解してもらうためには認定制度の実施がどうしても必要になってきたのである。

このような背景のもとでスタートした認定制度であるが、SPF豚農場では従来各農場が自主的に実施してきた基準を見直し、日本SPF豚協会が定めた基準に合致するよう、農場の再整備が進められている。このことによって、従来の「SPF養豚が目標とする生産性を達成できれば、細かい基準には拘らない」という考え方から、自他とも

に認めるSPF養豚システムの確立という方向へ大きな一歩を踏み出したといえよう。

5. 業界の反応

SPF豚農場認定制度の発足は、消費者にはまだ良く知られていないが、業界特に食肉市場やバイヤーの間ではかなりの期待をもって注目されているようで、SPF養豚関係者にとっては大変喜ばしいことである。

6. 今後の方向

今年8月からスタートした認定制度であるが、初めてのことであり、いろいろな問題があることが少しずつ判ってきた。たとえば、ヘルスチェックに予想以上に人手と費用がかかるとか、生産成績評価のためのデータ集積と分析が、農場毎の記録様式が異なるために非常に煩雑であることなどである。これらの困難をひとつずつ解決しながら、認定作業を遂行してこられたヘルスチェック責任者や生産成績評価責任者および関係者のご努力に深甚の敬意を表したい。

日本SPF豚協会は来年度以降も引き続きこの認定業務を積極的に推し進め、業界のみならず、一般消費者にもSPF豚認定農場産豚肉は高品質で安心して食べられるものであることを知ってもらえるよう、努力を続けるつもりである。

関係者各位のなみなみならぬ熱意と努力によって、ようやく発足にこぎつけたこの認定制度は正しく厳格に運営されるべきであり、将来の日本の養豚を象徴するような権威ある制度として定着するよう、じっくりと育てていきたい。